

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成21年4月30日(2009.4.30)

【公表番号】特表2008-533988(P2008-533988A)

【公表日】平成20年8月28日(2008.8.28)

【年通号数】公開・登録公報2008-034

【出願番号】特願2008-503027(P2008-503027)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 39/125 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/085 (2006.01)

C 0 7 K 16/10 (2006.01)

C 1 2 N 7/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 K 39/125 Z N A

A 6 1 P 35/00

C 0 7 K 14/085

C 0 7 K 16/10

C 1 2 N 7/00

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月13日(2009.3.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(i) 配列番号：1 6 8 又は (i i) 少なくとも 2 0 個のヌクレオチドの長さの配列番号：1 6 8 の連続する部分と少なくとも 7 5 % の配列同一性を有する核酸配列を含む単離核酸。

【請求項 2】

(i) 配列番号：1 6 9 又は (i i) 少なくとも 1 0 個のアミノ酸の長さの配列番号：1 6 9 の連続する部分と少なくとも 7 5 % の配列同一性を有するアミノ酸配列を含む単離ポリペプチド。

【請求項 3】

配列番号：1 6 8 と少なくとも 9 5 % 、 9 0 % 、 8 5 % 、 8 0 % 、 7 5 % 、 7 0 % 又は 6 5 % の同一性がある配列を含むゲノムを有する、単離セネカバレーウイルス又はその誘導体若しくは類縁体。

【請求項 4】

次の特徴：腫瘍細胞における複製能、腫瘍細胞親和性及び正常な細胞における細胞溶解の欠如を含む、請求項 3 記載のウイルス又はその誘導体若しくは類縁体。

【請求項 5】

請求項 3 若しくは 4 記載のウイルス又はその誘導体若しくは類縁体の有効量及び薬学的に許容される担体を含む医薬組成物。

【請求項 6】

請求項 2 記載のポリペプチドに、又は請求項 3 若しくは 4 記載の単離ウイルス又はその誘導体若しくは類縁体のいずれかのエピトープに特異的に結合する単離抗体。

【請求項 7】

少なくとも 100 個のヌクレオチドの配列番号：168 の連続する配列と少なくとも 75 % の同一性がある配列を含むゲノムを有するウイルスを含有する、癌の治療のための医薬組成物。

【請求項 8】

前記ウイルスがピコルナウイルスである、請求項 7 記載の医薬組成物。

【請求項 9】

前記ピコルナウイルスがセネカバレーウイルスである、請求項 8 記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記ピコルナウイルスがセネカバレーウイルス様ピコルナウイルスである、請求項 8 記載の医薬組成物。

【請求項 11】

前記セネカバレーウイルス様ピコルナウイルスが、MN88-36695、NC88-23626、IA89-47552、NJ90-10324、IL92-48963、CA131395、LA1278、IL66289、IL94-9356、MN/GA99-29256、MN99197 及び SC363649 からなる分離株の群より選択される、請求項 10 記載の医薬組成物。

【請求項 12】

請求項 3 若しくは 4 記載のウイルス又はその誘導体若しくは類縁体を含有する、異常増殖性細胞を死滅させるための医薬組成物。

【請求項 13】

(a) セネカバレーウイルスゲノムが配列番号：168 と少なくとも 95 % の同一性がある配列を含むセネカバレーウイルスゲノム配列を、試験ウイルスゲノム配列と比較すること；

(b) セネカバレーウイルスゲノム配列によりコードされるポリペプチドと試験ウイルスゲノム配列によりコードされるポリペプチドとの間の少なくとも最初のアミノ酸の差を同定すること；

(c) 試験ウイルスゲノム配列によりコードされるポリペプチドがセネカバレーウイルスゲノム配列によりコードされるポリペプチドに対して少なくとも 1 つ少ないアミノ酸の差を有するように、試験ウイルスゲノム配列を突然変異させること；

(d) 突然変異試験ウイルスゲノム配列を腫瘍細胞に形質移入すること；及び

(e) 腫瘍細胞が突然変異試験ウイルスゲノム配列により細胞溶解的に感染しているかを判断すること；

を含む腫瘍溶解ウイルスを作製する方法。

【請求項 14】

(a) 少なくとも 100 個のヌクレオチドの長さの配列番号：168 の連続する部分と少なくとも 75 % の同一性がある核酸配列を含む親配列から作り出される、複数個の核酸配列を含むウイルス突然変異体のライブラリーを作り出すこと；

(b) ウイルス突然変異体のライブラリーを複数の突然変異ウイルスが産生されるように許容細胞に形質移入すること；

(c) 複数の突然変異ウイルスを単離すること；

(d) 単離した複数の突然変異ウイルスを非許容細胞と共にインキュベートすること；及び

(e) 非許容細胞で産生された突然変異ウイルスを回収し、それによって変化した親和性を有する突然変異ウイルスを作製すること；

を含む変化した細胞型親和性を有する突然変異ウイルスを作製する方法。

【請求項 15】

前記ウイルス突然変異体のライブラリーを作り出すことが、

(i) 親配列の一部と配列同一性を有するポリヌクレオチドを提供すること；

(i i) ポリヌクレオチドを突然変異して複数の異なる突然変異ポリヌクレオチド配列を生成すること；及び

(i i i) 複数の突然変異ポリヌクレオチドを (i) でポリヌクレオチドが含有するウイルスのゲノム配列部分以外のウイルスのゲノム配列を有するベクターと連結し、それによってウイルス突然変異体のライブラリーを作り出すこと；

を含む、請求項 1 4 記載の方法。